

第1学年音楽科学習指導案

日時 平成27年11月11日(水) 授業①
場所 八幡平市立西根中学校 第1音楽室
学級 1年3組(男子17名 女子14名 計31名)
授業者 中野 勝之

1 題材名 日本の四季をイメージした箏曲をつくり表現しよう

2 単元について

(1) 生徒観

本学年の生徒達は、これまで歌唱を中心に学習をしてきた。楽譜を読むことが不得意な生徒が多く、リズム譜や階名読みを毎時間少しずつ練習してきた。そのため以前よりは楽譜に対する抵抗感は少なくなっている。また、歌唱等の表現活動では、男子の反応が良く大きな声で歌っている生徒が数名いる。それに対し、女子は表現することに苦手意識を持っている生徒がいて、歌声は小さかった。しかし、授業を重ねるごとに徐々に声が出るようになってきている。

器楽や創作に関しては、本題材が初めての題材となる。おそらくほとんどの生徒が箏に触れたことがない。アルトリコーダーやシンセサイザーでは、指使いなどでつまずいていた生徒も、爪をはめて絃はじくだけで、比較的簡単に音を出すことができる「箏」という楽器に興味を持ち、新鮮な気持ちで意欲的に活動に取り組むであろうと思われる。また、「箏」は「日本の音楽」の特徴を感じ取りやすい楽器でもあり、演奏することで独特の雰囲気を出すこともできる。正座をし、静かに心を落ち着けて情緒豊かに演奏する。普段の日常生活ではほとんど体験できない、貴重な時間を共有できると思われる。そして、本題材の学習を通して、生徒たちは自分自身の持っている音楽観を大切にしながら、新たに日本の音楽を見つめ直し、その価値に気付くことができるであろうと考える。

(2) 題材観

和楽器の中でも、箏は弾けば容易に音を出すことができる楽器であり、奏法を工夫することで音色にも変化をつけやすい。楽譜は漢数字で記譜できるため、読譜の苦手な生徒も前向きに取り組めると思われる。また、日本の音楽は5音でできているので、演奏技術の差を感じさせず創作活動がしやすいと考えた。途中、八橋検校作曲「六段の調」を鑑賞するが、この作品は箏の伝統的技法がすべて盛り込まれた名曲であり、生徒達が奏法を工夫するための一つのきっかけとしたい。

今回、16面の「文化箏」を31名で使うことになるので、ペア単位で学習を進めることにした。二人であれば教え合いながら学習できるという効果もある。使う楽器は、本来の箏の半分以下の長さで、出し入れや取り扱いも手軽にできる「文化箏」を取り入れた。本来の箏と同じく13本の弦を持つが、糸の間隔が狭く合わせ爪などが容易で、弦の張力が本来の箏ほど強くないため、押し手も楽にできる。「文化箏」でも、十分に箏の特性を味わったり、基本的な奏法を習得することができるため、本来の箏に進む意欲にもつなげることができると考えている。

(3) 指導観

本題材は、器楽と創作の活動を関連付けたものである。学習指導要領の内容は、「A表現」(2)器楽の事項イ、(3)創作の事項ア、〔共通事項〕のうち音色、旋律(音階、音のつながり方)、構成などを扱う。

箏曲「六段の調」の「初段」(八橋検校作曲)を聴いたり、箏の奏法を試したりして、知覚・感受を深めながら箏の特徴を捉え(器楽と創作に共通)、基礎的な奏法を身に付けて「さくらさくら」(日本古謡)を演奏する(器楽)とともに、日本の四季をイメージした旋律をつくる(創作)。さらに、自分達がつくった旋律を演奏する(器楽)学習を展開し、表現力を高めたい。

3 題材の目標

(1) 箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成に関心をもち、箏の基礎的な奏法などを身に付けて演奏する学習や、箏のための簡単な旋律をつくる学習に主体的に取り組む。

【音楽への関心・意欲・態度】

(2) 箏の音色、平調子による旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら箏の特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように演奏するか、旋律をつくるかについて思いや意図をもつ。

【音楽表現の創意工夫】

(3) 箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な、基礎的な奏法などの技能を身に付けて演奏する。

【音楽表現の技能】

(4) 平調子による旋律などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて簡単な旋律をつくる。【音楽表現の技能】

4 単元指導計画と評価 (全7時間) ※「言」は言語活動

時 間	学習課題	評価規準			
		音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
1	箏の音色、平調子による旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、箏の音色や奏法に関心をもち、「さくらさくら」の演奏に取り組む。	箏の音色や奏法に関心をもち、基礎的な奏法で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 (観察)	箏の音色、平調子による旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 (記述)		
言	・箏の音色、旋律、旋律の反復や変化などの構成について気づきを発表する。【全体】				
2	箏の基礎的な奏法、読譜の仕方を身に付け、箏の音色や奏法に関心をもち、「さくらさくら」を演奏する。			箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な、箏の基礎的な奏法、読譜の仕方などの技能を身に付けて演奏している。 (観察)	
言	・お互いの演奏にアドバイスをする。【小集団】				
3	旋律の特徴、左手や右手の奏法などを生かして即興的に音を出しながら創作をする活動に主体的に取り組む。	箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴に関心をもち、即興的に音を出しながら旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 (観察)			
言	・箏の特長を生かした表現を考えて創作する。【小集団】				

4 ・ 5 本 時	箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、創作に必要な技能を身に付け、表現したいイメージにふさわしい箏のための旋律をつくる。		知覚・感受しながら、箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。 (記述)	箏の奏法、平調子による旋律、構成などの特性を生かした音楽表現をするために必要な、音の組み合わせ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて簡単な旋律をつくっている。 (記述)	
言	・表現したいイメージに合うような旋律を相談しながらつくる。【小集団】				
6	箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を感じ取って、自分が作った旋律について、箏の特徴を捉えた音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。		知覚・感受しながら、箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を捉えた音楽表現を工夫し、自分がつくった旋律をどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 (記述)		
言	・実際に箏で演奏をしながら、表現の工夫について相談する。【小集団】				
7	箏の基礎的な奏法、読譜の仕方を身に付けて、自分がつくった箏のための旋律を演奏する。			箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な、箏の基礎的な奏法、読譜の仕方などの技能を身に付けて演奏している。 (発表)	
言	・作品発表会において、旋律の特徴やどのように表現したいかを発表する。【全体】 ・演奏した作品について、感想を発表する。【全体】				

5 本時の指導

(1) 本時のねらい

①箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を感じ取って音楽表現を工夫する。

【音楽表現の創意工夫】

②創作に必要な技能を身に付け、表現したいイメージにふさわしい箏のための旋律をつくる。

【音楽表現の技能】

(2) 評価規準

評価の観点	評価規準	言語活動の工夫
① 【音楽表現の創意工夫】	知覚・感受しながら、箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。 (観察)	・ワークシートに記入することでイメージを明確にする。
② 【音楽表現の技能】	箏の奏法、平調子による旋律、構成などの特性を生かした音楽表現をするために必要な、音の組み合わせ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて簡単な旋律をつくっている。 (記述)	・縦書きの楽譜に漢数字で記入することにより容易に作曲できるようにする。

(3) 本時の展開

段階	学習活動	指導と評価	指導上の留意点
導入 10分	1 前時の振り返り ・前時の学習を想起し、奏法、旋律の最後の音、構成などの旋律をつくるポイントを確認する。 [資料提示] 2 学習課題を設定する。 [課題設定]	・どんな奏法があったか発言させる。	・実際に教師用箏で音を出し確認する。
自分達のイメージにふさわしい箏のための旋律をつくろう			
展開 30分	3 創作活動 ・ペアで相談しながら創作する。 [情報分析] [思考・判断] ・創作したものをグループ内で発表し、アドバイスをしあう。 [思考・判断] ・アドバイスを参考に創作を工夫する。 [表現] ・自分達がつくった旋律〈作品〉をワークシートに記譜をする。 [表現]	[創] ・知覚・感受しながら、箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。(観察) ・イメージにふさわしい音色、奏法になっているか確認しながら創作させる。 ・時間を区切り、発表、アドバイスをきちんと行えるようにする。 ・アドバイスを受けて、自分達なりにレベルアップするよう促していく。 ・自分達がつくった旋律〈作品〉をワークシートに記譜をさせる。 [技] ・箏の奏法、平調子による旋律、構成などの特性を生かした音楽表現をするために必要な、音の組み合わせ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて簡単な旋律をつくっている。(記述)	・生徒が音楽で表したいイメージを膨らませていくことができるよう助言する。 ・つまずきが見られるグループに対しては、自由に音を出すことを楽しみながら、その音をよく聴いて、イメージに合うような音高を選んだり、音のつながり方や奏法を様々に試したりするよう促していく。
終末 10分	4 学習のまとめをする。 ・表現したいイメージにふさわしい旋律をつくるために工夫したことをワークシートに記入する。 [振り返り]	・ワークシートに書き込ませる。	・工夫した点を具体的に記入できるよう指示をする。